

Institute for Language Education
Aichi University, Nagoya
Goken News

No. 17 July 2007



ヴェルサイユの小トリアノン (le Petit Trianon) :
18世紀後半、マリー・アントワネットはここに英国式庭園と
英国の農村「のようなもの」をつくらせた。

CONTENTS

- ・『ギリシア・ローマ神話』と現代(3)
クレタ島にまつわる種々の伝説
(山田 晶子) 2
- ・読む力を鍛える 精読について
(服部 茂) 4
- ・ミスター・メンとリトル・ミス
英語キャラクター絵本の人気シリーズ
(安藤 聡) 5
- ・英国的スーパーストア
(安藤 聡) 7
- ・2007年春、フランス大統領選挙。そして？
(田中 正人) 11
- 海外最新事情 14
 - ・イギリス
 - ・中国
 - ・韓国
- 外国語コンテスト 18
 - ・英語部門
 - ・ドイツ語部門
 - ・フランス語部門
 - ・中国語部門 (法・経営)
 - ・中国語部門 (現中)
 - ・韓国・朝鮮語部門
 - ・日本語部門
- 外国語コンテスト入賞作 22
 - ・英語部門
 - ・フランス語部門
 - ・中国語部門
 - ・韓国・朝鮮語部門
 - ・日本語部門

『ギリシア・ローマ神話』と 現代 (3) クレタ島にまつわる種々の 伝説

経営学部
山田 晶子

クレタ島 (Crete) は、ギリシア (公式名ギリシア共和国 Hellenic Republic) に属する島で、面積は約8300平方キロメートルである。地中海に浮かぶ美しい島であり、紀元前2000年頃に栄えたクレタ文明 (Crete Civilization、ミノア文明とも言う) の遺跡が今も残っている。代表的な遺跡はクノッソス宮殿 (Knossos Palace) である。さて、このクレタ島には、ギリシア・ローマ神話と関連する多くの伝説が残っている。今回はこれらの伝説について書こうと思う。

【ゼウスとエウローペー】

ゼウス (Zeus, ラテン名から来た英語名ジュピター Jupiter) はギリシア神話の神々の王であるが、正妻ヘラ (Hera, ラテン名から来た英語名ジュノー Juno) がいるにもかかわらず多くの女神や人間の女性や妖精 (ニンフと呼ばれる) と恋をした。その恋人の一人がエウローペー (Europa, ラテン名エウロパ Europa。ギリシア名と同じ綴り字) である。彼女はシリア (一説にはフェニキア) のチュロスの美しい王女であったが、ゼウスは彼女に恋をしたために策略を弄して白い美しい牡牛に姿を変えて、牧場で花を摘んでいた彼女に近づいた。そしてそれを本物の牛だと思ったエウローペーは、牛があまりに美しかったためにそれに近寄ったとき、あっという間に牛は彼女を背中に乗せて風のごとく去って行った。彼女はゼウスに誘拐されたのであった。牛がどこへ行ったかといえば、地中

海を渡ってクレタ島へ行ったのである。クレタ島でゼウスは神の姿に戻り、エウローペーとの間に息子ミノス (Minos) をもうけた。エウローペーはクレタ島の最初の妃となったのであった。ゼウスはエウローペーを連れ去ったときに、今のヨーロッパ (Europe) をあちらこちらへとさまよったために、そこはエウローペーの名前が起源となってヨーロッパと呼ばれるようになったと言われている。

また、木星 (英語でジュピター Jupiter と呼ばれるが、これはゼウスのことである) の衛星の一つにエウロパがあるが、これもエウローペーのラテン名がつけられたものである。このほか木星の衛星には、ギリシア神話に登場する国や女性たちや男性たちの名前がつけられている。テーベ、イオ、ガニメデ、カリスト、パシファエ等がそうである。

【ミノタウロスとダイダロス】

クレタ島の文明であるミノア文明が栄えたのは、ミノス王の時であった。ミノス王は、ゼウスとエウローペーの長男であった。彼には悲劇がまわりついてる。というのは、彼は海神ポセイドン (Poseidon, ラテン名から来た英語名ネプチューン Neptune) から美しい牡牛を贈られたが、それは後にまた海神にいけにえとして返す約束になっていた。しかしこの約束をミノス王が破ったことが悲劇の始まりであった。もっと言えば、ゼウスがそもそもエウローペーを誘拐したことが間違っていたのである。さて、ポセイドンが贈った牡牛は余りにも美しく、ミノス王は返すのが惜しくなり偽の牛を返したのであった。しかし神をだますことはできないことであった。怒ったポセイドンは、恐ろしい復讐をしたのである。それはどんなことかと言えば、ミノス王の妃であるパシファエ (Pasiphaë) が、この牡牛に恋をするように仕向けたのである。人間と牛との恋! ギリシア・ローマ神話にはこんなにも様々な恋の形があるのである。しかし人間と野獣との恋物語は世界中に存在しているのではないだろうか。日本でも、伏姫に

恋をした八房という犬の物語があり、両者の間に八人の男児が生まれた（滝沢馬琴著『南総里見八犬伝』）。

常識的には、人間と動物の恋は人道を外れたことであった。パシファエは、神に掛けられた呪いを打ち破ることは出来ず、哀れにも、ダイダロス (Daedalus) という絶世の名工匠に本物の牝牛に似た木の牛をこしらえさせてその中に入り込み、自分が恋をした牝牛と交わりそのため恐ろしい化け物が生まれた。これが、体は男性であるが頭から上は牛という怪物のミノタウロス (Minotaur) であった。ミノス王は、この怪物を世間から隠すために、名工匠ダイダロスに命じてラビリントス (Labyrinthos) と呼ばれる迷宮を作らせ、その中に怪物を閉じ込めた。英語のラビリンス (labyrinth) は「迷宮、迷路」の意味であり、この語源はギリシア語のラビリントスである。また英語の daedal は形容詞で「複雑に入り組んだ、迷路のような」の意味であり、ラビリントスを創ったダイダロスの名前が語源になっている。

さて、ダイダロスはアテネの生まれであったが、殺人罪を犯したために罰を受けてアテネを追放されてクレタ島に来ていたのであった。彼の息子がイカロス (Icarus) である。しかしクレタ島でも、ダイダロスはミノス王に逆らったために息子と一緒にラビリントスに閉じ込められてしまった。彼がミノス王を怒らせたのは、ミノタウロスを殺しにきたアテネの英雄テーセウス (Theseus) を助けようとする、ミノス王の娘である王女アリアドネ (Ariadne) に糸玉の知恵を授けて彼女とテーセウスを手助けしたからであった。アリアドネのおかげでテーセウスはミノタウロスを殺すことができた。今日、「アリアドネの糸」という言葉は、混乱や紛糾を解きほぐす手引きの意味で用いられている。

ダイダロスは、何とかして迷宮から脱出しようと考え、その結果空を飛んで逃げることを思いついた。それは鳥の羽を集めて大きな翼を作り、ロウでそれを背中にくっつけて空を飛ぶという方法であった。彼は息子のイカロスにも同じ翼を作っ

てやった。そして空を飛ぶときに太陽の熱でロウが溶けて翼が取れないように、あまり太陽に近づいてはいけないと息子に教えておいた。しかし、親子と一緒に飛び立ったとき、息子のイカロスはずっと高く飛びたいと思って上へ上へと昇っていったために、ロウが溶けて翼が離れ、彼は地中海に落ちて死んでしまった。この伝説に基づいて、天文学では太陽に最も近づく小惑星はイカロスと呼ばれている。また、イカロスの死体が流れ着いた島は、現在イカリア島と呼ばれている。現在、クレタ島にはラビリントスの廃墟が残っている。

また、20世紀の偉大な小説家であるアイルランド人ジェームズ・ジョイス (James Joyce 1882 - 1941) はその小説『若い芸術家の肖像』 (*A Portrait of the Artist as a Young Man*, 1916) の主人公の名前を、ダイダロスから取ってスティーヴン・ディーダラス (ダイダロスの英語名読み) と名づけている。ジョイスは、自分の分身である主人公スティーヴンが、ダイダロスのように閉じられた世界 (アイルランド) から飛び立って世界的な芸術家として成功することを願っていたが、「意識の流れ」 (stream of consciousness) という手法を英文学史上初めて用いたこの小説は見事に成功して、ジョイスは世界的な作家となったのである。彼の代表作は『ユリシーズ』 (*Ulysses*, 1922) と『フィンネガンズ・ウエイク』 (*Finnegans Wake*, 1939) である。

以上に述べてきたように、クレタ島にはギリシア・ローマ神話に出てくる神や人間が多く関わっているものであり、彼らは現代に至るまで世界に大きな影響を与えてきているのである。

読む力を鍛える 精読について

名古屋語学教育研究室
服部 茂

学生の皆さんは、日頃どんな方法で英文を読む練習をしているのだろうか。独り善がりになっていないだろうか。分かったつもりで読んでいないだろうか。

英文を読む力、英文読解力を養うには、英文を丹念に読み進める精読がその有効な手段のひとつである。精読力を身につけることにより、誤読や誤解をかなりの部分で防ぎ、正しく英文が読める下地をつくる。その下地を基盤に、英文を要約、多読、速読することも可能になり、今後の発展的な学習が期待できる。さらに、精読力が備わっていれば、どんな形態の英文であろうとある程度自信を持って臨めることであろう。

ここで、誤解して欲しくないのは、精読イコール訳読と捉えることである。確かに、精読と訳読は同義語的であり、やり方次第では同じ意味を指すこともある。しかし、精読とは文章を納得して読みすすめ、決してごまかさずに英文と向き合い理解することである。英文を構成する文法、語彙、構文、リズム、発音などを含め忠実に英文を読み解き、その規則なりを自分のものにしていくプロセスなのである。一方、訳読は、精読と逆行するプロセスであり、ただ訳して終わり。英語から日本語に置き換えたにすぎない作業なのである。その結果、その英文の意味がどんな内容なのか、訳者には関心がなく、よって日本語においても説明ができない。

実際、私も読み中心の授業の場合、英文の意味

を問うたり、試験問題の設問をつくる際、本当に学生がこの英文を読めているかどうかを判断するために、日本語の要約や説明を果たすことが多い。日本語に写し換えただけでは不十分として見なししている。というのも、それだけで英文が読めているかどうか判断するのが難しいからである。繰返えすが、精読と訳読は、英語学習において全く違う学習過程であり、前者は、確実に読む力を養い、後者は不安定な読みであることを強調したい。

精読力（読む基礎力）がいかに大切であるかをもう少し述べてみる。私の経験の一例ではあるが2つのエピソードを紹介しよう。1つ目は、「速読」はどうすれば上達するのかといった趣旨の相談を学生から受けたことがある。その時、その学生に所有格の関係代名詞を入れた簡単な短文を書き、それを訳してもらったところ、その学生はしばらく考え込んで、誤訳さえしてしまった。つまり、彼には、英文を十分に読みこなすだけの文法が備わっておらず、速読の域にも達していなかったのである。文法力がなければ、短文ですら理解できない例である。2つ目は、「意味はだいたい分かります」、「大雑把には内容を把握しています」と言う学生がいる。それは果たして本当だろうか。その「だいたい」や「大雑把」に正しく内容を把握できる力はかなりの高度な英語力を必要とし、上級の学習者でなければならぬ。日本語においても、私たちはある程度の日本語力がついているからこそ新聞の見出しを見ただけで、正しくその内容を予想できたり、その流れを読めたり、読めない漢字ですら基本となる漢字を熟知しているので、なんとかその意味が正しく推測できるのである。速読も内容把握もしっかりとした基礎力の裏づけがあって初めてできることなのである。

その精読学習の中心となるのが語彙も含め文法であり、構文である。動詞の語法、時制、受動態、不定詞、分詞、動名詞、関係詞、接続詞、句と節の概念、品詞といった文法は文中でどんなはたらきをするかを理解しておかなければならない基本文法である。文法にあまり自信がない人は、受験英語といった細かい例外の用法は必要ないので、

最低限これらの文法事項がどんな場合に使われるのかを高校時代に使用した参考書で良いので、各文法事項の冒頭の説明を読んで理解しておくことは大切である。学習法については、文法書で文法項目を集中して復習するのも方法だが、これらの文法事項を読みものを通じて、文法と読みを平行して復習するのも方法であろう。

英語学習上級者には、抽象度が高く、ある一定の知識、経験をもち合わせた成人向けに書かれた英文に挑戦してほしい。比較、仮定法、倒置、省略、強調、同格、無生物主語、名詞構文、句と節の挿入は押さえておきたい。書き手は、読み手により説得力をもたせるためにも、英文構造をより複雑に組み立ててくるし、使われる語彙も当然豊富になる。英米のエッセイなどは読み応えがある文章がたくさんあるので是非触れてみて、一文一文身にしみながら英文を味わうおもしろさを知ってもらいたい。

精読を通じて学習する利点は、読解力が高まるにつれ、例えば英文構造にしても、so~that だからとか、比較だからこう訳す(訳読の名残)ではなく、書き手は、自らの感情や思考を英文構造や構文に託しているのだからこうした書き手の気持ちや微妙なニュアンスが文法、構文を通じて直に分かるようになる。ここまできると、訳書ではなく原文に当たってみたくなる。原書の原文を読むことで、訳書よりも直接その意味がストレートにわかってきて、英語そのもので理解するようになる。原書にあたらないうまくいかないという感じになれば、精読力云々(うんぬん)は卒業であり、その時、前から自然に英文を読んでいることであろう。

文法、構文、語彙に立脚して英文を丹念に読む学習、精読は、読むための学習だけでなく、読むことを通じて、英作文、会話、リスニング、さらに、各種英語の検定試験へと学習の応用が効き、学生諸君の英語学習の助けとなる。辞書一冊(これも正しく使いこなせることが前提)あれば、どんなジャンルの英文も読めるという自信がつけば、英語はもっと楽しくなる。

ミスター・メンとリトル・ミス——英語キャラクター絵本の人気シリーズ

経営学部
安藤 聡

ロジャー・ハーグリーヴズ (Roger Hargreaves, 1935~1988) の絵本「ミスター・メン」(Mr Men) シリーズは1971年にその第一作『ミスター・ティックル』 *Mr Tickle* が出版されて以来、『ミスター・チアフル』 *Mr Cheerful* まで全43作を数え、絵本ばかりでなく様々なキャラクター商品も英語圏のみならず世界中で人気を博している。絵は単純な線と鮮やかな色彩で描かれ、各巻のタイトル (= 主人公の名前) がそのままその主人公の性格、特質を表す。例えばミスター・ノイズィー (Mr Noisy) はとても五月蠅く、ミスター・レイズィー (Mr Lazy) は怠け者で、ミスター・フォゲットフル (Mr Forgetful) は忘れっぽく、ミスター・ロング (Mr Wrong) は間違えてばかりいる。

ハーグリーヴズはヨークシャー西部のクレックヒートンで洗濯屋を営む両親の許に生まれ、高校を卒業して一年間家業を手伝ったのち、近隣のブラッドフォードの広告会社にコピーライターとして就職し、数年後にロンドンの広告会社に移った。絵本の文章にも短いセンテンスと単純な言葉が効果的に使われているが、このような技法はおそらくコピーライターとして活躍していた時代に培われたのであろう。ロンドン時代のある日、会社での会議中に、ハーグリーヴズは手が異様に長い男の絵を書類の余白に落書きしていた。その絵がことのほか上手く描けたので、自宅に持ち帰り長男のアダムに見せたところ、アダムは「この人にくすぐられたらどうなるだろう?」と言ったらしい。

こうして処女作『ミスター・ティックル』が出来上がったという。同時に人並み外れた大食漢の物語『ミスター・グリーディー』(Mr Greedy)、いつも楽しい『ミスター・ハッピー』(Mr Happy)、詮索好きな『ミスター・ノズイー』(Mr Nosey)、くしゃみばかりしている『ミスター・スニーズ』(Mr Sneeze)、ぶつかってばかりいる『ミスター・バンブ』(Mr Bump)の五編も出版された。三年後に雪だるま (snowman) の『ミスター・スノウ』(Mr Snow)、散らかしてばかりいる『ミスター・メッスィー』(Mr Messy)、何でも反対にしてしまう『ミスター・トプスィー=ターヴィー』(Mr Topsy-Turvy)、馬鹿なことばかりする『ミスター・スイリー』(Mr Silly)、傲慢な成金の『ミスター・アピティー』(Mr Uppity)、とても小さな『ミスター・スモール』(Mr Small)の六編が加えられ、この頃から「ミスター・メン」というシリーズ名で呼ばれるようになった。

たとえば第26巻『ミスター・ストロング』(Mr Strong)は以下のような話だ。ミスター・ストロングは世界最強で (Mr Strong is the strongest person in the whole wide world.)、とても怪力なので鉄棒を素手で曲げることが出来るだけでなく、鉄棒に結び目を作ることが出来る (He is so strong he can not only bend an iron bar with his bare hands, he can tie knots in it)。ミスター・ストロングの力の源はタマゴで、彼の朝食は前菜がタマゴ、メインディッシュもタマゴ、そしてデザートもタマゴである。朝食の後、歯を磨こうとしても、力が強すぎて歯磨き粉を一度に全部チューブから絞り出してしまい、歯ブラシを折ってしまう (And, as usual, he squeezed all the toothpaste out of the tube. And, as usual, he cleaned his teeth so hard he broke his toothbrush. Mr Strong gets through a lot of toothpaste and toothbrushes!)。ミスター・ストロングは外出しようとして家の扉を破壊してしまう。木にぶつかると木の方が折れてしまい、道で車に轢かれると車の方が大破してしまう。しばらく行くと彼は火事で炎上している農場に行き着く。彼は農場の納屋を地面から引き抜

き、それを担ぎ上げて川へ行き、水を汲んで一気に火を消すことに成功する。農場主から礼としてたくさんのタマゴをもらってミスター・ストロングは家に帰り、扉や椅子やテーブルを破壊しながら昼食の支度をする。昼食もまた前菜がタマゴ、メインがタマゴ、そしてデザートは、というところで、最後に意外なおチがついて終わる。

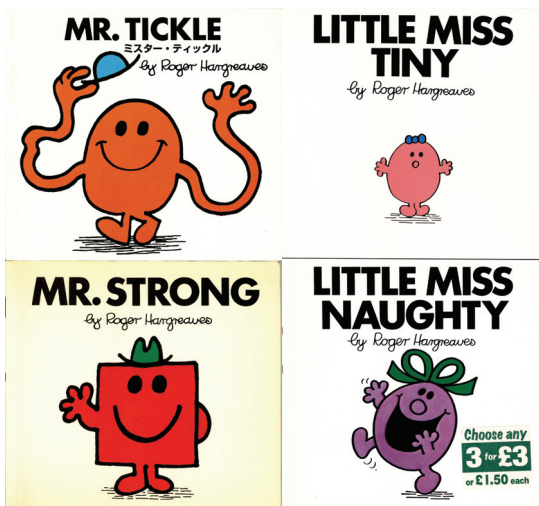
最初の六巻が出版されて十年を経た1981年に、今度は女の子のキャラクター「リトル・ミス」シリーズが始まった。『リトル・ミス・ボッスィー』(Little Miss Bossy)は人に命令ばかりしている仕切り屋の少女が主人公で、『リトル・ミス・ノーティー』(Little Miss Naughty)の主人公は悪戯ばかりしていて、『リトル・ミス・ヘルプフル』(Little Miss Helpful)は人の手伝いが大好きな少女の話だ。他にも恥ずかしがり屋の『リトル・ミス・シャイ』(Little Miss Shy)やおしゃべりな『リトル・ミス・チャターボックス』(Little Miss Chatterbox)、遅刻ばかりする『リトル・ミス・レイト』(Little Miss Late)、双子の『リトル・ミス・トゥインズ』(Little Miss Twins)、賢い『リトル・ミス・ワイズ』(Little Miss Wise)、頑固な『リトル・ミス・スタポーン』(Little Miss Stubborn)など全33巻がある。

たとえば第5巻『リトル・ミス・タイニー』を見てみよう。このとても小さな少女は、農場のダイニングルームの壁にネズミが空けた小さな穴の中に住んでいるが、小さすぎて誰にも気づいてもらえず、孤独な生活を強いられている (The trouble was, because she was so tiny, nobody knew she lived there. Nobody had noticed her. Not even the farmer and his wife. So, there she lived. All alone. With nobody to talk to. She was very lonely. And sad.)。ある日、友達を探しに彼女は外に出るが、豚も猫も大きすぎて怖いので友達になることが出来ない。そこへ、農場にタマゴを買いに来たミスター・ストロングが登場し、リトル・ミス・タイニーに何人かの友達を紹介する。ミスター・ファニー (Mr Funny) は面白いジョークで彼女を楽しませ、ミスター・グリーディーは好

きな料理のレシピを彼女に教え（分量を百分の一にすることも付け加えて）、ミスター・スイリーも馬鹿なことをして彼女を笑わせる。だが彼女の最もよい友達になれたのは、他ならぬミスター・スモールだった。

ハーグリーブズは1988年9月に脳卒中で急逝した。享年53歳だった。彼の死後、長男アダムがこのシリーズを引き継いで、『ミスター・クリスマス』や『リトル・ミス・パースデイ』といった作品を書いている。（英国のシリーズ化された絵本としてミスター・メン、リトル・ミスと人気を二分する『きかんしゃトーマス』シリーズもまた、作者の死後その息子が後を継いで書き続けている。）すでにミスター・メン、リトル・ミスともにBBCによってアニメーション化されていて、またキャラクター商品としてはぬいぐるみや文房具、Tシャツやスナック菓子はもちろんのこと、女性用の下着まであったりする（リトル・ミス・シャイとリトル・ミス・ノーティーの二種類があるらしい）。

これらの絵本は現在、英語版はワールド・インターナショナル、日本語版はTama エンタープライズから出版されている。



英国的スーパーストア

経営学部
安藤 聡

外国のスーパーは楽しい。その国を、そしてその街を本当に知りたければ、観光名所に行くよりもスーパーに行く方が遙かによからう。観光地には観光客と観光業者しかいないが、スーパーにはその土地の普通の人々がいつでも集まっているのだから。そしてそこには、必ず何かしら意外なものが売られている。英国なら例えばスパゲッティの缶詰とかトーストを立てるためのラックとか。しかも、店内を歩き回っているだけで、ありがたいことにその国の言葉のいくつかを自然に覚えてしまう。突然だが、「まな板」、「もやし」、「綿棒」、「糊」、「録画用テープ」を英語で何と言うか？すべてに即答できる人はあまり多くないと思われる。だが、英語圏のスーパーで買い物をした経験が何度かある人なら、「cutting board」、「beansprouts」、「cotton buds」、「glue」、「blank tape」と即座に言えるのではないかと。英単語（に限らずあらゆる外国語の単語）というものは概して、単語集や辞典でいくら勉強してもすぐに忘れてしまうものだが、店頭で現物を見ながらそこに表示された商品名を見れば、現物のイメージや店内の雰囲気と相俟って記憶に定着しやすいものだ。ついでに言うのであれば、文脈やイメージの連想と無関係に単語をいくら暗記しても、どうせすぐに忘れてしまうであろうし、よしんば覚えていたとしても実際にその単語を適切に使いこなせるようにはなかなかならないのである。

さて、英国の有名なスーパーと言えば、テスコ

(Tesco)、セインズベリーズ (Sainsbury's)、アズダ (Asda) そしてモリソンズ (Morrisons) だ。それに独自の品質と高級感で差別化を図るウェイトロウズ (Waitrose)、比較的小規模な店舗に特化したサマーフィールド (Somerfield)、さらに生協 (Co-op) もあればクイックセイヴ (Kwiksave) やパウンドストレッチャー (Poundstretcher) といった激安店もある。何年前かの夏期イギリスセミナーで、最初の三日間にロンドンの名所を、その次の日にオクスフォードの街を一通り周遊し、その間にロンドンとオクスフォードで一度ずつ全員でスーパーに買い物に行ったことがあった。それで四日目の夜に、そんなわけでこれまで見たうちでどこが一番よかったか、と訊いてみたところ、迷わずに「テスコ」と答えた学生が二人いた。ロンドン塔よりもバッキンガム宮殿よりも、マダム・タッソーの蝋人形館よりもウェストミンスター大聖堂よりも、オクスフォードの古い街並みよりもテスコの方が彼らの心を強く捕らえていたのだ。

テスコは四大チェーン店の中でも突出して最大大手であり、英国全土に約1800の店舗と26万人の従業員を擁する。「包括的提供」(inclusive offer) を信条とし、すべての地域のあらゆる階層の顧客が望む商品を提供する、ということを中心としている。周知の通り英国は階級社会であり、それぞれの階級ごとに好みも生活様式も著しく異なるため、この「包括的提供」は私たちが思うより遙かに困難なことなのだ。テスコが最大大手になった理由も、この難しい戦略に成功したからなのであろう。

テスコの起源は1919年にジャック・コウエンがロンドンのイースト・エンド (いわゆる下町) に開いた、他の店で売れ残った食品を安く売る露店であった。初日の売り上げは4ポンド、純利益は1ポンドだったらしい。テスコという名前の由来は1924年にコウエンが独自の銘柄の紅茶の販売に乗り出したとき、紅茶卸売り業者T・E・ストックウェルのイニシャル「T・E・S」とコウエンの「Co」から、このオリジナル紅茶を「テスコ・ティー」と命名したことによる。1929年にロンドン北郊のエッジウェア地区に開いた新店舗に「テスコ」の

名を冠して、以後ロンドン近郊を中心に支店を増やして行き、1947年に株式を上場した。この頃はまだカウンター越しに店員が客に商品を手渡して売る形式だったが、1956年にロンドン南郊のモールデンに (倒産した映画館を改装して) 出店した大規模店舗から、セルフサービス式のいわゆるスーパーマーケットになった。(このスタイルの店舗の導入は後述のセインズベリーズの方が早かったが。) この後1968年にウェスト・サセックス州のクローリーに大型店舗を出店したとき、初めて「スーパーストア」(superstore) という語が使われた。ちなみに「スーパーマーケット」(supermarket) は1930年代から米国で、また英国では1950年代後半から使われている。そして、このようなスーパーストアあるいはスーパーマーケットがさらに巨大化した郊外の超大型店舗を、1970年代から「ハイパーマーケット」(hypermarket) と呼ぶようになった。

1974年からはテスコのこのようなハイパーマーケットに給油所が併設されるようになり、1990年代にはオンラインによる書店や銀行をも始めている。90年代末期には携帯電話やインターネット・プロヴァイダーの分野にも参入し、2002年からは衣類の自社ブランド「チェロキー」を、2004年からは音楽ソフトのダウンロード販売をも開始した。また郊外型ハイパーマーケットとは別に都市型の比較的小規模な店舗「テスコ・メトロ」や、コンビニ形式の「テスコ・エクスプレス」もある。後者は日本への進出も決まっていて、首都圏を中心に2008年2月までに35店舗を出店の予定らしい。

業界第二位はセインズベリーズである。かつてはこのセインズベリーズが第一位だった。現在は英国全土に450以上のスーパーと300以上のコンビニ、そして約15万人の従業員を擁する。「包括的提供」のテスコと比べるとややミドルクラスの嗜好に特化したような印象があり、売られている商品 (特に野菜や果物) の質もテスコのそれより幾分いいような気がするが、その分値段も僅かに高めという気もする。私はセインズベリーズの大規模店舗にあるサラダバーとデリカテッセン、それ

にこの自社ブランドのジンジャーピアとジャファケイク（オレンジゼリーとチョコレートがトッピングされたビスケットのようなもの。紅茶に合う）が好きなので、英国滞在中にはTescoよりもセインズベリーズに行くことの方が多い。

このチェーン店は1869年にセインズベリー夫妻がロンドンのドゥルーリー・レインに乳製品を売る小さな店を開いたのに始まった。その乳製品が良質だったので評判を呼び、イズリントンやケンティッシュ・タウンなどロンドンのあちこちに支店を増やし、19世紀の終わりには48店を数えた。二つの世界大戦の間の大不況時に事業を大幅に拡大し、ロンドン周辺だけでなくミッドランズ（イングランド中部の工業地帯）にもこの頃進出した。早い時期から店内の装飾や自社ブランド製品のパッケージデザインに工夫を凝らしていた。1950年にロンドンの南のクロイドンに初めてセルフサービスのスーパーマーケットを開店したが、この当時市民は物資の不足と配給の長蛇の列にうんざりしていたため、この新しいシステムの店舗は大いに歓迎された。1974年にはケインブリッジの郊外に初めてのハイパーマーケットを開き、またこの頃から自社ブランドのワインや、食品以外の領域をも充実させるようになった。近年ではTesco同様、給油所を併設した大型店舗も増え、またオンライン銀行やコンビニ「セインズベリーズ・ローカル」、また給油所とコンビニを一体化した店舗もある。

セインズベリーズに次いで業界第三位のアズダは、前者と比べても、またTescoと比べても、遙かに庶民的な雰囲気のあるスーパーである。1999年からは米国の大手スーパー、ウォルマートの傘下に入り、米国並みの超大規模店舗をも開設している。

Tescoやセインズベリーズと比べるとアズダの歴史は浅く、1965年にヨークシャー地方の酪農場の組合が創業した。「アズダ」の名前の由来には二説あり、それは「酪農場組合」（Associated Dairies）の最初の二文字ずつを取ったという説と、最初の店舗を所有していたアスキス（Asquith）兄弟と「酪農場」（dairy）それぞれの最初の二文字を繋げたという説である。このアスキス兄弟の

店は小規模なものだったが、1963年にはウェスト・ヨークシャー州のカーズルフォードに旧映画館を改装したセルフサービス式のスーパーが開設された。

アズダは今でこそイングランド南部にも進出しているが、元来はヨークシャー周辺など北部を主なテリトリーとしていた。このことは、アズダがTescoやセインズベリーズと比べて庶民向けの品揃えになっていることと大いに関係がある。温暖な気候の南部には伝統的に裕福なミドルクラス以上の住民が多く、工業地帯である中部や厳しい気候の北部には昔から貧しい労働者が多く住んでいた。このようなイングランドにおける南北格差は大変なもので、現在でも住民の平均年収や平均寿命はもとより、平均身長から喫煙率までが北と南で驚くほど大きく異なっているのである。（ちなみに、身長は南高北低、喫煙率は北高南低である。）北部に起源を持つアズダは、ロンドンから始まったセインズベリーズやTescoとは、あきらかに異なった階層の顧客を前提としているのだ。

同じくイングランド北部に起源を持つモリソンズも、アズダと同様どちらかと言えば庶民的なスーパーである。現在は英国全土におよそ370店を展開していて、他のチェーンが近年食品以外の分野に手を広げているのに対して、モリソンズは今も食品に重点を置いている。2004年に米国系資本のスーパー、セイフウェイ（英国内では主としてイングランド南部とスコットランドに店を構えていた）を買収したため、それまでイングランド北中部中心だったのがここで一挙に全国展開を果たしたことになる。旧セイフウェイを除いてモリソンズの店舗の正面入口上にはたいてい時計台があり、ある種のランドマークとなっている。

モリソンズは1899年にウィリアム・モリソンが創業した。モリソンはウェスト・ヨークシャー州のブラッドフォードで卵や牛乳を売る商人だった。現在もその息子サー・ケン・モリソンが会長を務めている。セイフウェイを買収する際に、小規模店舗を100以上サマーフィールドに売却したが、一方でセイフウェイの自社ブランドのうち高品質

食品の「ザ・ベスト」と健康食品「イート・スマート」はそのまま名前を変えずに継承した。

以上の四大チェーンの他に、独自の高級路線で孤高の地位を保つウェイトロウズにも是非注目しておきたい。私は普段から、どんなものでも高級品はあまり好まないのだが、このスーパーは大好きで、車で旅行中に、あるいは町を散策中に見かけると用がなくてもつい入ってしまう。イングランド南部とウェイルズ南部を中心に約180の店舗があり、27,000人の従業員がいる。ウェイトロウズはテレビや新聞雑誌の広告でも決して価格の安さを宣伝することはなく、価格に見合った以上の品質の高さを強調する。(とは言え別に驚くほど高いわけではない。) 建物は白壁の落ちついた外観で、店内には音楽や呼び売りが一切なく、静かな雰囲気を保たれている。客層も他のスーパーとは明らかに違う。

ウェイトロウズは1904年にウォレス・ウェイト、アーサー・ロウズ、デイヴィッド・テイラーの三人がロンドン西部のアクトン・ヒルに小さな食品店を開いたことから始まった。その後1937年に大手百貨店ジョン・ルイスに買収され、その後ウェイトロウズという名前を冠したスーパーの第一号店を1955年にロンドン南郊のストリータムに開店した。

このスーパーの独自性はアップーミドルクラス以上にターゲットを絞った品揃えばかりでなく、その独特の経営形態にも見られる。ジョン・ルイスとウェイトロウズでは従業員がこれらの会社の「パートナーシップ」すなわち部分的な所有権・経営権を授与され(このため従業員は「パートナー」と呼ばれる)、年に一度その収益金がすべての従業員に還元される。これは従業員の年間給与の1割から2割に相当する金額だそうだ。日本と比べて英国のあらゆる商店(スーパーに限らず)の店員は呆れるほど無愛想で態度が悪いのが多かったりするが、その中であってウェイトロウズの店員は比較的感じがよい。これはこのように、それぞれの店員がその店を所有しているという誇りと責任感に起因しているようだ。また従業員の平均就

業年数も他のチェーン店のそれより遙かに長い。

2000年からはイングランド中北部への進出が始まり、サマーフィールドの店舗を10以上買い取って、これまで出店していなかった地域にも支店を出すようになった。さらに2004年からはモリソンの旧セイフウェイ店舗を30軒近くも買収した。この中にはエディンバラの二店舗も含まれていて、これまでは南部だけのチェーンというイメージだったウェイトロウズが、全国区の高級スーパーというイメージに変容しつつある。

アズダとモリソンズが南部に進出してウェイトロウズが中北部に領土を拡大しつつあるという現象は、この国で階級の均一化が進みつつあることの兆候なのかも知れないが、同時にそれはまたさらなる地方色の衰退という好ましくない結果をもたらすことにもなるのであろう。尤も、全国チェーンのスーパーという存在自体が、各地域に根ざした個人商店の存在を脅かしているのであり、特に最大手のTescoにはこのような意味からの批判が集中していることも事実である。(興味のある人は2006年3月16日の『タイムズ』を参照のこと。)



セインズベリーの郊外型店舗

2007年春、フランス大統領選挙。そして？

法学部
田中 正人

5年前の5月1日。筆者は「美しい5月」のパリにいた。極右国民戦線FN総裁のルペンが2位となり、ジョスパン（当時首相）3位敗退という「晴天の霹靂」「政治的地震」をもたらした大統領選第1回投票直後のことだった。その日午前9時頃からはシャトレ広場でFNの集会を見物。リヴォリ通りを下ってジャンヌダルク像近くではルペンが大型ベンツから降り立つのを目撃。午後はバスティエユ広場へ。こちらの方は、反ルペン、共和政防衛の集会と共和国広場までのデモに加わるためであった。

それから5年。2期12年間大統領職にあったシラクが3選を目指すことなく引退。誰がその後継者に？初の女性大統領が誕生か？と大きな関心を集める中、昨年9月にはグラッキュス・パブーフ（！？）という筆名で『一騎打ち』なる政治小説が出版されもした。

12人の立候補者

フランス第五共和国第9代（6人目）大統領を目差して総計12人の候補者が立った。保守の大組織、人民運動連合UMPからは、ドヴィルパン首相ではなく、95年大統領選でのバラデュール支持ゆえにシラクとは冷たい関係のニコラ・サルコジ。自身ハンガリーからの移民の子でありながら（ソ連赤軍に所領を没収され、亡命を余儀なくされた小貴族の子であるがゆえに？）、05年10～11月に失業の影響を最も強く受けている、大都市郊外の

貧しい移民の若者を「社会のクズ」「ゴロツキ」と呼んで暴動の契機を作った人物。UMP総裁でありながら、首相とはならず、内相として移民規制、治安強化に努めた。首相として経済その他国政全体の実績評価を受けることを回避しようとする巧妙な立ち回りを見せていた。

左翼第1党の社会党PSからは、書記長オランド、元首相ジョスパン、ドミニク・ストゥロスカーク、切れ者ファビウスではなく、オランドの「内縁の妻」にして4児の母たるセゴレーヌ・ロワイヤルが昨年春以降急浮上して候補に。女性票を意識したとも考えられる。

前回02年の下院総選挙に向けて、シラクの唱える右翼単一政党結成に与しなかった中道右派のフランス民主連合UDFからはバイルが。FNからはルペンが5度目の立候補。移民排除を訴え続け、人種差別発言ゆえに公民権停止判決を受けたことさえある人物である。

争点

前回治安強化、移民規制強化、欧州連合EU拡大・強化統合の順で争点化していたが、今回はEU問題がやや後景に退いていた。グローバル化と欧州統合推進の中で、沈滞気味のフランス経済、これと関連する深刻な失業問題（8%超）、さらに購買力低下、環境、移民問題への対応が主要争点。サルコジはアメリカ流の新自由主義的路線による経済活性化、移民規制の強化、治安強化を主張した。ジョスパン政権時代に成立した週35時間労働制、手厚い社会保障制度が企業の国際競争力を低下させ、経済の低迷と失業率の高さを招いているのであって、週35時間労働制の見直し～柔軟な適用、社会保障の切詰めによって企業負担を軽減し、競争力を高めれば、景気は回復し、雇用も拡大する、という論理。これに対してロワイヤルは人権と平等、社会保障の充実と格差是正、弱者救済を訴えていた。

第1回投票結果

4月22日の第1回投票の結果、サルコジが31.1

%、ロワイヤルが25.8%、バイルは18.6%、ルペンは10.5%。第2回投票にはサルコジとロワイヤルが進むこととなった。この結果以外に、フランス国民=有権者の投票行動からは、いくつかの注目すべき現象が観察された。

第1に、高投票率。好天ゆえに(あるいは、にもかかわらず?)、02年の第1回投票の際の71.6%を上回り、第5共和政における大統領直接選挙として最高数値の84.6%を記録。

第2に、中道派の得票率上昇。前回の8.7%から18.6%へほぼ倍増。

第3に、左右両極の後退。極右候補ルペンへの支持の低下(前回の17.2%から10.5%へ)と極左諸候補の低迷(また、共産党候補ピュフェの得票はわずか1.9%)。ルペンの得票低下は、移民問題への厳格な対応を訴えるなどしたサルコジのキャンペーンに支持層を切り崩されたから。極左票の低下はロワイヤルが「有意義な投票」を訴えたことが一因であろう。

いま一点、出口調査によれば、投票動機の点では、サルコジへの投票者は治安強化と移民規制が強く、これに対してロワイヤルへの投票者は社会的排除と不安定雇用とに対する闘いを挙げていた。将来への願望の点では、サルコジへの投票者は「より秩序と権威のある社会」を、これに対してロワイヤルへの投票者は「より個人の諸自由が認められる社会」を希求していた。かつての左翼vs. 右翼とは異なる対立図式が見られるのではないか。

決選投票へ

第1回投票後から2週間にわたる両者の激しい闘い。共産党、エコロジスト、極左の候補たちがロワイヤル支持を表明し、左翼のほぼ全政党・政党がロワイヤルの側についた。

5月1日、恒例のバリ集会でルペンは、「われわれの綱領を横取り」したサルコジに復讐しようとしてロワイヤルに投票することにも、当のサルコジに投票することにも反対する立場から棄権を訴えた。

両者がもっとも重視したのは中道右派。バイルは自分の支持者層に対して明確な指示を出さなかった。6月の下院選に向け、全選挙区で候補を立てるべく民主運動 Mouvement démocrate の結成を目差しているバイルにとって、左翼と右翼との対決図式に埋没することを避けたかったのであろう。しかし、バイルとロワイヤルは28日にテレビで対談(サルコジはバイルとの対談を拒否)。5月2日夜の150分に及ぶサルコジとロワイヤルとの間のテレビ討論(総人口の約3分の1の2000万人が視聴)では、ロワイヤルの攻撃的姿勢とサルコジの静かで穏やかな守りの姿勢が目立った(直後の世論調査では53%がサルコジの方が説得力ありとの結果。強面のサルコジがソフトイメージを装った形。セゴレーヌの喧嘩腰が嫌われたのか)。いずれにせよ、この討論は大勢に影響を与えず。ロワイヤルからすれば形勢逆転の契機とはならず。直後にバイルは、「サルコジには投票しない」旨(棄権か、ロワイヤルに投票かは詳らかにせず)、個人的に意思表示。完全中立ではなく、サルコジ拒否の姿勢を示したのである。他方、UDF議員の多くはサルコジ支持だった。

5月6日の第2回投票

この日もほぼ全国的に好天。投票率は84%(前回02年の第2回投票はシラクの勝利が確実視されていたために79%止まりであった)。得票率はサルコジ53.1%、ロワイヤル46.9%。サルコジが初の戦後生まれ(ロワイヤルも)の大統領に選出された。出口調査によれば、第1回投票の際にバイルに投票した有権者のうち40%がロワイヤルに、サルコジにも40%以上が流れた。バイルに投じられた682万票の60%以上がロワイヤルに回れば勝利の目もあったとされたのだが、5月に入ってサルコジに回る割合が上昇。ルペンへの投票者のうち、ルペンの指示に反してサルコジに投票したのは60%であった。サルコジの勝因は、投票分析からは極右支持層から中道右派支持層までの票を得たことによる。社会経済的な階層では、サルコジはやや高年齢層、高所得階層での得票率が高く、

ロワイヤルは低年齢層（20歳台半ば~30歳台半ばの世代を除く）と低所得階層において高かった。地域的には六角形の本土フランスの右上半分（おおむねオイル語圏）は右翼・サルコジ支持、左下（同、オック語圏）は左翼・ロワイヤル支持が強いという分布が見られた。

下院総選挙とその後

これから組閣、誰が首相に？ポルローか？それはさておき、この結果を受けつつ、6月10日および17日には下院総選挙。この選挙は、小選挙区制の下、絶対多数代表制で実施される。すなわち、第1回投票で有効投票の過半数を得た候補者がなければ、第1回投票での得票率12.5%以上の者が第2回投票で決着を付ける方式（おおむね左翼と右翼の候補者2人の間での決選投票となるが、極右候補などが条件をクリアして3人による第2回投票もある）。PSと民主運動 MoDem（旧 UDF）との間で選挙提携が結ばれるのか？それとも MoDem は入閣という餌につられて、UMP と手を結ぶのか（この場合、民主運動のアイデンティティは弱まることとなるが）？そしてサルコジ大統領と党が維持されるのか？

81~95年の2期14年間にわたったミッテラン政権、その後のシラク政権第1期には、ドゴール憲法が想定していなかった事態、すなわち左翼の大統領と右翼の首相＝内閣、あるいはその逆の形で保革共存（大統領与党と首相与党＝議会多数派とのネジレ）が3度存在した。内政は内閣、外交は大統領、という棲み分けが慣行として成立してはいる。さて、6月の下院総選挙には、保革共存を回避しようとする民意が働くのであろうか。さて、さて??（2007年5月13日脱稿）。

サルコジの任命した首相はフィヨン。6月総選挙を前に積極的に改革政策を提起。その効果もあって、直近の世論調査ではUMPおよびPSの得票率はそれぞれ42%、28%と予測されており、UMPは577議席中最大で430議席を獲得する、という読みもある。1年前のシラク政権が支持率20%台と

崖っぷちにあった事態とは天と地の違いである。なぜこうした急激な変化が？この点については別の機会に考えてみたい（2007年6月9日加筆）。

(海外最新事情)

イギリス

(1) 北アイルランド自治政府

2007年5月8日、4年7ヶ月にわたって凍結されていた北アイルランドの自治政府が復活した。英国領としての残留を主張する民主統一党 (Democratic Unionist Party) と英国からの独立 (アイルランド共和国との統合) を求めるシン・フェイン党 (Sinn Fein: アイルランド語で「私たち自身」の意) による連立政府が発足し、前者の党首イアン・ペイズリーが首相、後者の幹部の一人マーティン・マクギネスが副首相に就任している。

北アイルランドでは長年にわたって紛争が続いていた。これは一面では、英国領残留を望むプロテスタント (イングランド国教会、長老派、メソヂストなどを含む) と英国からの独立を望むカトリックの宗教的対立でもある。英国王ヘンリー八世が1541年にアイルランドに植民を開始し、清教徒革命後の1652年にはオリヴァー・クロムウェルがアイルランドを事実上の植民地とし、ジョージ三世時代の1801年にアイルランドは英国に併合された。1840年代後半には大飢饉によって人口が半減し (多くが米国へ移住)、1905年にシン・フェイン党が結成されて独立の機運が高まり、1916年のイースター (キリスト復活祭) の日にダブリンで「イースター蜂起」が起こり、1922年に英国の自治領アイルランド自由国として独立を果たす。アイルランド自由国は1949年に、現在の国名であるアイルランド共和国 (英語名 The Republic of Ireland、アイルランド語名 Eire) に改称され、この時に英連邦 (The British Commonwealth) から脱退している。

アイルランド自由国成立を巡る内紛の結果、イングランドやスコットランドからの移民 (すなわ

ちプロテスタント) が多かった北部の六州は英国領に留まることとなり、現在の北アイルランドとなった。それ以来この地域のカトリック教徒が独立を求め、特に過激派のアイルランド共和軍 (Irish Republic Army. 略称 IRA) がテロ活動を続け、プロテスタント過激派のアルスター義勇軍 (Ulster Volunteer Force. 略称 UVF) もまた対抗して同様な活動を展開していた (アルスターとはアイルランド島北部地方の呼称で、北アイルランドの六州と共和国のドニゴール州がここに含まれる)。北アイルランドの首都ベルファースト (造船で有名な工業都市。タイタニック号はここで製造された) にはこの両陣営の拠点が置かれ、一般の住民もプロテスタントの居住地区とカトリックのそれとに分かれて生活している。1972年1月30日には (ロンドン) デリー (北アイルランドの第二の都市。元々の地名は「櫛の森」を語源とする「デリー」だったが、17世紀初頭にジェームズ一世が勅許を与えてロンドンの商人を大勢ここに移住させたとき「ロンドンデリー」に改名された。今でもプロテスタント住民はこの街をロンドンデリーと呼び、カトリック住民はデリーと呼ぶ。本稿では中立を保つため、「(ロンドン) デリー」と表記する) で独立運動家が26人、英国軍に射殺された。この事件は「血の日曜日」 (The Bloody Sunday) と名付けられ記憶されている。

このように長年にわたって対立が続いていた北アイルランドのプロテスタントとカトリックだが、1998年4月10日には「ベルファースト合意」 (Belfast Agreement. 「聖金曜日合意」 Good Friday Agreement とも) によって停戦と武装解除、英領残留と自治権確立、アイルランド共和国政府との共同評議会の設立、国民投票の実施が取り決められ、両陣営のすべての政党が参加する北アイルランド議会が成立した。この合意に尽力したアルスター統一党党首デイヴィッド・トリンブルと社会

民主労働党党首ジョン・ヒュームにはノーベル平和賞が授与されている。だがその後、IRAの期限内の武装解除が実行されず、2002年10月から自治政府が機能停止して再び英国政府によって直轄統治が行われる状態が続いていた。今年の3月26日に、5月8日からの自治政府再開が合意されたのだった。

(2) 少年たちのための読書案内

2007年5月16日の『タイムズ』に、13歳から19歳までの少年たち (teenage boys) のためのお勧め本リストが掲載されている。これは教育相アラン・ジョンソンが始めた読書習慣普及活動の一環で、60万ポンド (約1億4千万円) の予算が生まれ、英国中のすべての中学高校にこのリストに掲載された167作品の中から任意の20冊が無料で贈呈されるという。

なぜ「少年たち」に限定されているかということ、英国では何年か前から中等学校における学力の男女差が深刻化しているからであり、その原因は少年たちの多くがあまり本を読まないことだからである。ジョンソンも明言しているように、読書量は国語 (つまり英語) のみならずあらゆる科目の学力に直結するのである。学力の男女差はこの国の大学入試の結果に如実に表れていて、Aレヴェル (大学入試の全国共通試験) の学校別成績順位では上位20の大半を、女子パブリックスクールが毎年占めている。このことを伝える数年前の新聞記事 (手許にないので出典を明記出来ない) の分析では、男子生徒の間に勉強や読書を「女々しいこと」と考える風潮があり、勉強など出来ない方が「格好いい (cool)」という考え方が蔓延しているせいでもあるという。

本を読まない少年たちの多くはおそらく、読書が根っから嫌いなのではなく、単に読書の面白さを知らないだけなのであろう。このリストは彼らに読むことの面白さを実感させることに主眼が置かれていて、それゆえに古典文学の必読書よりも親しみやすい「面白い」本が優先されている。たとえばシェイクスピアやミルトンはもちろんのこと、オースティンやディケンズの作品さえも含ま

れておらず、科学知識や雑学に関する本や日本製の「マンガ」 (外来語として 'manga' で通じる) が入れられていたりする。いわゆる『ギネス・ブック』も第5位にエントリーされている。

有名な文学作品としては第15位にダニエル・ディフォウ (慣用的表記では「デフォー」) の『ロビンソン・クルーソー』、18位にメアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』、20位にR・L・ステイヴンソンの『宝島』、21位にJ・R・R・トルキーンの『ホビット』、22位と23位にそれぞれマーク・トウエインの『トム・ソーヤー』と『ハックルベリー・フィン』といった作品が含まれている程度だ。『アリス』も『ナルニア』も『ハリー・ポッター』も入っていない一方で、フィリップ・ブルマンの『北極光』 (17位)、ダレン・シャンの『血の獣』 (60位) といったファンタジー作品が含まれている。ロアルド・ダール作品からは『チョコレート工場』でも『マチルダ』でもなく自伝『少年』が106位に選ばれている。珍しいのは26位にランクされているカズ・キブイシの『フライト』である。こんな作家は知らなかったので調べてみたところ、1978年東京都出身の米国で活躍する漫画家とのことだ。(キブイシなどという苗字が日本に実在するののかと思ってこれも調べたが、「木部石」と書くらしい。) また161位に青山剛昌の『名探偵コナン』が入っている。

『タイムズ』の記事によれば、このリストは自身もかなりの読書家であるジョンソンが個人的に作成したものらしい。並べられている作品の是非には色々と意見もあろうが、このリストはあくまでもきっかけに過ぎず、ここから少年たちが本の面白さを覚え、自分の好きな作品を自分で見つけられるようになればよいということなのである。

(安藤 聡)

中国

「貝晶歓迎妮」に秘められた意味とは

中国語でオリンピックのことを「奥林匹克運動会 (Ào lín pǐ kè yùn dòng huì)」、略して「奧運会 (Ào yùn huì)」と言う。すでにご存知のこ

と思われるが、来たる2008年、8月8日から8月24日までの間、中国の首都・北京でオリンピックが開催される。

オリンピックにはマスコットキャラクターが付き物であるが、北京オリンピックにおいても、昨年の末頃だったか、今年に入って間もなくの頃であったか忘れてしまったが、五匹のかわいらしいマスコットキャラクターが発表された。その名をそれぞれ「贝贝 (Bèi bei)」「晶晶 (Jīng jīng)」「歡歡 (Huān huān)」「迎迎 (Yíng yíng)」「妮妮 (Nǐ nǐ)」と言い、総じて「福娃 (Fú wá)」と呼ぶそうだ。「娃娃 (wá wa)」は「お人形」の意であることから、「福をもたらすお人形」とでも訳せようか。

「贝贝」は、頭に水中を自在に泳ぐ魚模様のかぶり物を身につけており、それは中国の新石器時代の土器に画かれた魚の図案をイメージしたものだと言う。また、水の青色から五輪の中の青色の輪を象徴する。

「晶晶」は、無邪気で愛くるしいパンダをモチーフとしたキャラクターで、頭にはハスの花びら模様のかぶり物を身につけている。それは宋代の磁器に好んで画かれるハスの絵をイメージしたものだと言う。また、パンダの黒色から五輪の中の黒色の輪を象徴する。

「歡歡」は、頭に真っ赤に燃える炎を模したかぶり物を身につけており、それは敦煌の壁画に画かれた炎をイメージしたものだと言う。また、その炎はオリンピックの聖火を象徴し、その赤い色から五輪の中の赤色の輪を象徴する。

「迎迎」は、頭にチベット高原を駆けめぐりカモシカをイメージしたかぶり物を身につけている。また、チベット高原の大地の黄色から五輪の中の黄色の輪を象徴する。

「妮妮」は、頭にツバメ模様のかぶり物を身につけており、それは北京の空高く揚がるツバメ型の凧をイメージしたものだと言う。ちなみに、今の北京を中心とした一帯の地は、春秋戦国時代には「燕^{えん}」という名の国が治めていたこともあり、北京もまたかつては「燕京^{えんけい}」と称された。また、ツバメが舞う頃に鮮やかになり始める草木の緑から、五輪の中の緑色の輪を象徴する。

ところで、この五匹のマスコットキャラクターの名前には、ちょっとした工夫が施されている。実は、名前の一文字ずつを順番に並べると、「貝晶歡迎妮 (Bèi jīng huān yíng nǐ)」となり、声調はやや異なるものの、発音がほぼ「北京欢迎你 (Běi jīng huān yíng nǐ)」に通じ、「ペキンはあなたを歓迎します」という意味を暗示するといった仕掛けになっていたのである。(矢田博士)

韓国

韓国人の住宅購入資金

^{サムソン}三星経済研究所が、2007年第2四半期の「消費者態度調査」とその付加調査「家計の資産および負債運用調査」の結果を5月6日に発表した。ここでは、後者のうち家計の負債に関する内容の一部を紹介したい。

調査は、全国1000世帯を対象に、20才以上の男女に対する電話インタビューにより実施された。その結果、負債があると回答したのは全体の52%で、借金した目的は以下の通りである。

住宅購入のため：50.2%

事業資金調達のため：26.3%

消費のため：22.5%

チョンセ(注1) 資金のため：0.8%

年齢別に見ると、住宅購入目的は、20代と30代が他の世代より多く(60.9%と62.0%)、事業資金調達目的は、40代と50代が他の世代よりも多い(28.8%と31.4%)。

いずれにしても、どの年齢層も住宅購入を目的に挙げた回答がもっとも多いのであるが、では、住宅購入のためにどの程度の借金をしたのであるか。以下は、住宅購入を目的に貸付を受けた当時の住宅価格に対する借入金の比率と、その回答率である。

20%未満：34.4%

20～40%未満：45.8%

40～60%未満：16.0%

60～80%未満：3.8%

筆者は、インターネット上のニュース記事でこの数字を見た瞬間、我が目を疑った。「そんなバ

力な、間違いじゃないのか！」筆者が12年前に住宅を購入した時（もちろん日本です）、購入価格に占める借金の割合は80%に近かった。ニュース記事のひとつで、比率が60%を超える3.8%について「強心臟강심장」と表現していた。「おれは強心臟だったのか？」

ともかく、上の数字で、20%未満と20～40%未満の借金で購入した人の割合を足すと実に80.2%にもなる。きちんと調べたわけではないが、日本であれば考えにくい数字ではないか。しかも、韓国では現政権の不動産政策の失敗のために、住宅価格が高騰し、バブル状態にある。この調査では住宅を購入した時期は分からない。それ以前に購入した世帯が圧倒的に多いのかもしれない（注2）。それにしても、本当にその程度の借金で買えるのか。そこで、念のために、三星経済研究所のホームページにアクセスし、会員登録をして調査報告書の実物（電子版）をダウンロードした。それを見ると上の数字に間違いのないのである。

その報告書をさらによく見れば、住宅購入のために借金をしたとの回答は、住宅を保有していると答えた862世帯のうちの262世帯にすぎない。住宅保有者に対する、住宅保有時に資金をどのように準備したかについての質問があり、その回答は次のようになっている。

預金等、金融資産：54.6%

借入：25.9%

他の不動産処分：16.1%

遺産：3.4%

年齢別では、20代と30代が借入に頼る割合が高いとはいえ、それでも前者が34.0%で後者が34.5%にすぎない。これら年齢層でも金融資産によって購入した割合が48.9%と49.4%で、ほぼ半分を占めている。このこともまた、日本では考えにくいのではないだろうか。日本では借入に頼る割合が圧倒的に高いはずである。

一方、別の調査結果、すなわち国民銀行研究所が昨年12月に発表した2006年度の「住宅金融需要実態調査」（都市部に住む2000世帯が対象）報告書によると、最近3年間に購入した住宅の平均購入金額は2億753万ウォン（約2700万円）で、購入世帯の62.4%が金融機関から平均7202万ウォン

（約940万円）の融資を受けたとなっている。購入価格に対する借入の割合は約34.7%となり、三星経済研究所の調査結果、すなわち20～40%未満が最多の45.8%を占めていることと符合している。しかし、購入に際して融資を受けた世帯の割合は三星経済研究所の25.9%に対して、国民銀行研究所の62.4%と大きな開きがある。後者の場合、最近3年間に購入した世帯のみが対象であることからくる違いであるかもしれないが、正直に言って筆者にはよく分からない。

念のために付け加えておけば、平均購入価格の2億753万ウォン（約2700万円）は日本人から見れば安く見えるが、次のことを考慮する必要がある。すなわち、日本人と韓国人の一人当たりの所得は米ドル換算で3万7180ドルと1万3980ドル（いずれも2004年）で、約2.7倍の開きがあるということである。このことを考慮すれば、韓国人が2億753万ウォンの住宅を購入するということは、日本人が7200万円くらいの住宅を購入する感覚に等しいであろう。ようするに、日本人から見れば安く見えようと、韓国人から見れば決して安くはない、というよりも非常に高いのである。

日本での同種の調査結果を参考にしたり、住宅購入資金の貸付制度などについて日韓での違いを調べてみないとはっきりしたことは分からないが、住宅購入の資金調達に関して両国の間で大きな違いがありそうである。

（注1）チョンセ：「不動産の所有者に一定の金額を預けてその不動産を一定期間借りるときの関係をいう語。家賃を月々支払う必要がなくその不動産を返すときは預けた金の全額が返済される」（『朝鮮語辞典』小学館）

補足すれば、これは韓国独特の賃貸制度で、家主は預かった金を運用して、その運用益が家賃となる。

（注2）本体の「消費者態度調査」報告書によると、現在は住宅購入に適切な時期かの問いに51.0%が「若干悪い」と答え、6.2%が「大変悪い」と答えている。

（田川光照）

第12回 外国語コンテスト

英語部門

英語部門は11月28日火曜日に行われた。今回は残念なことに応募者数がわずか3人と少なく、やや盛り上がりには欠けたかもしれない。

星野晶（ほしのあきら）君の“I shall rise”は自作の歌によるパフォーマンスだった。戴亜杉（たいあすぎ）君の“The friendship”は自分と古くからの友人との関係についてのスピーチだった。竹中治美（たけなかはるみ）さんの“Language ability changes with astonishing speed”は、自分が初めての中国滞在中に中国語の会話が進歩したことについてのものだった。

どれも素晴らしいものであったが、特に竹中さんのものは、新しい言語を学んでいて、その進歩が自分で実感できた時の喜びが、とてもリアルに伝わってきて、非常に優れたものだったと思う。その意味で、竹中さんが入賞者として最もふさわしかったと思われる。（多田哲也）

ドイツ語部門

2006年度の名古屋語学教育研究室主催第12回外国語コンテスト・ドイツ語部門の本選が、2006年12月5日（火曜日）の午後4時40分より名古屋校舎中央教室棟204教室でおこなわれました。その結果を簡単にですが、報告したいと思います。

今回課題としたのは、グリム童話のなかでもとくに有名な『ヘンゼルとグレーテル』の冒頭部分です。貧しい両親は自分たちの子どもを森に捨ててしまおうと話しています。それを聞いてしまったグレーテルは怖くて仕方ありません。しかしヘンゼルはグレーテルを励まし、何とかしてみせると約束します。この部分までを課題としました。

グリム兄弟による収集で知られる『グリム童話』は、使用されているドイツ語に関していえば、子どものためといいながらもその時代の古さから、実は決して簡単なものではありません。そのため今回は、理解の助けになるように詳細な注や解説もついたテキストを用意しておきました。それでも、授業ではまったく扱わないテキストですから、準備は大変だったはずですが、にもかかわらず、今年には12名の参加者が応募してくれました。

審査にあたったのは、ドイツ語担当教員である法学部所属の竹中克英先生と経営学部所属の私（島田了）の二人で、表現力と発音・アクセントの合計点で審査を行いました。

すでに述べたように、内容としては決して簡単ではないテキストですが、参加者は各自で熱心に練習に取り組んだ様子で、高いレベルで完成度を競う結果になりました。基本となる発音・アクセントの確かさはもちろんのこと、今回は童話ということで、より表現力が必要とされます。それでも決め手となったのは、発音・アクセントのより自然な表現であり、滑らかさでした。結果は、第一位（優勝）西田衣里さん（05J1353）、第二位岩田裕治くん（03J1265）、第三位山本裕子さん（05M3563）となりました。

ドイツ語の履修者が減っていくなかで、他の外国語に比べて参加者の数が少ないことは否定できません。しかしドイツ語の履修者全体に対する比率とその質の高さは大いに評価したいと思います。今後何らかの形で工夫を重ね、質の高さを求めつつ、同時に多くの参加者が集まるようにしたいと思います。法学部・経営学部といった社会科学系の学部を中心としたキャンパスのせい、たとえば、外国語の1クラスが40名を超えているなど、外国語教育の環境としては、現状は決して満足の

できるものではありません。それにもかかわらず、これだけ熱心にそして上手にドイツ語を話せる学生がいるということは、ドイツ語の担当教員としてとてもうれしく思います。

ドイツ語は、実用という点では英語や中国語などに比べて不利ですが、印欧語の文法的特徴が多く残っているため、外国語の学習をそのものとして楽しむことが出来る言語ではないかと考えています。一人でも多くの学生さんにこの楽しみに気づいてもらえたらと願っています。

最後になりましたが、意欲的な学生の皆さん、語学教育研究室にかかわっている多くの教職員の方のおかげで今回もこのような意義のあるコンテストを続けることができましたことに、心よりお礼申し上げます。(島田 了)

フランス語部門

フランス語部門のコンテストは2006年12月1日(金曜日)に実施された。例年であれば国際コミュニケーション学部のラッセン先生を審査委員長にお招きして実施するところであるが、ラッセン先生が海外研修中だったので、審査委員長は経営学部の田川先生、法学部の中尾が審査員として開催した。コンテスト出場者は16名で、フロアには50名以上の聴衆を集めてにぎやかに行われた。

昨年は参加者が少なかったので全員で予選と決戦を行ったが、今年は例年通り、予選と本選に分けて行い、予選では自作フランス語作文または課題の朗読を行ってもらった。課題の朗読には19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍したフランスの詩人アポリネールの、日本でもおなじみの「ミラボー橋」(Le Pont Mirabeau)、本選ではジルベール・ベコーの名曲 Et maintenant (そして今は)を初見で朗読してもらった。自作の仏作文を用意してくれた学生は4名いた。

予選段階ではさすがに上級生が実力の違いを見せ、下級生にはなかなかきびしいコンテストとなった。田川先生と私の採点がほぼ一致し、半数の参加者が本選へ進出することとなった。本選は逆に

審査員にとってきびしいコンテストとなった。全員の発音がすばらしく、順位をつけるのが難しかったが、最終的には発音ミス数がいくつだったかという本当に僅差の決着となった。入選者は以下のとおりである。

- 第1位 03J1292 成田 愛
- 第2位 03M3149 飯田 誓悟
- 第3位 05J1271 小田 知嗣

成田さんは正確な発音に加えて、フランス語独特のイントネーションや落ち着いた話しぶりが見事であった。2位の飯田君は成田さんとまったく甲乙つけがたかった。ほんの少し発音のミスがあった点が減点となり2位となったが昨年の1位に引き続いての入賞はまことにすばしかった。3位の小田君は2年生ながら、先輩に勝るとも劣らぬしっかりした発音が評価された。フランス語を学び始めて2年しか経っていないとは思えないほど、正確な発音で十分に練習してきたことをうかがわせた。

フランス語部門のコンテストにも全体の表彰式にも多くの学生が聴衆として参加してくれて、彼らの反応も気になった。単に先生が出席しなさいといったから来ただけだろうか、それともこの機会に何かを得てくれるだろうか、心配だった。しかし、コンテストが始まると、あちこちから驚嘆のため息やざわめきが聞こえてきて、どうやら私の心配は杞憂だったようだ。先輩、後輩、同級生たちがどれほど勉強しているかを目の当たりにして、よい刺激を受けてくれたのではないかと思う。今後ともコンテストが単に優秀な学生の発表の場であることに留まらず、学生同士がお互いに知的な刺激を与え合う貴重な機会としますます発展していくことを願っている。(中尾 浩)

中国語部門 (法・経営)

第12回外国語コンテスト中国語(法学部・経営学部)部門は、11月16日(木)午後15時より、205教室にて行われた。参加者は全部で21名。内訳は、一年生が17名、二年生が3名、三年生が1

名であった。例年の通り、一年生部門と二年生以上部門とに分け、それぞれの課題文を朗読してもらい、発音の正確さを評価の対象とした。今年は一年生の参加が多く、反面、二年生以上の参加が少なかったため、レベル的には去年よりも劣るのではないかと心配されたが、参加者はおおむね家でしっかりと練習してきたようで、当初の心配は一掃された。入賞者については、激戦で判断に迷い、特に第三位を決めるにあたっては、四人の候補者にもう一度朗読をしてもらわなければならないほどであったが、結果として、以下の三名を入賞とした。

第一位 05M3326 川元彩加

第二位 05J1255 三島知佳

第三位 06M3546 鈴木優太

今回参加してくれた人には、これに懲りず、来年もまた発音によりいっそう磨きをかけて、参加してくれることを期待したい。また、今回は参加を見送った人も、今度は是非、積極的に参加してもらいたい。(矢田博士)

中国語部門 (現中)

第12回外国語コンテスト中国語部門 (現中) は、2006年12月7日 (木) 13時30分から、課題部門18名、自由部門7名の合計25名が参加して行われました。審査は顧明耀先生、高明潔先生、安部の三名で行いましたが、今回は前回に比べ参加者が多く、また全体にレベルが高かったので、順位をつけるのが大変でした。参加した学生も、お互いにいい刺激となったようで、更なる研鑽を誓い合っていました。

課題部門は、「世界的中心」という文章を暗誦してもらいました。これはウイグルに伝わる阿凡提 (エペンディ) を主人公としたとんち話の一つで、世界の中心はどこかについての国王とのやりとりは、日本の一休さんに通ずるものがあるかもしれせん。出場者は、内容をしっかり理解した上で暗誦しており、その表現力の豊かさに関心させられました。厳正な審査の結果、次の3名が入

賞しました。

1位 06C8084 盛田 美帆

2位 06C8064 谷崎 剛将

3位 06C8012 田邊 千香子

自由部門は7名の参加でしたが、出場者のレベルが例年以上に高く、激戦となりました。内容的にも、それぞれの経験を踏まえた説得力のある話が多く、審査員も審査を忘れ思わず聞き入ってしまうほどでした。このため審査は難航しましたが、厳正な審査の結果、次の3名が入賞しました。

1位 02C8120 伊藤 佳寿子

2位 05C8150 伊藤 えり

3位 05C8106 加留部 瑤

1位の伊藤佳寿子さんは、「跳出排他性民族主義的圈子 (排他的ナショナリズムを乗り越える)」というタイトルで、中国留学中に経験した反日デモから、ナショナリズムとは何かを考え、それが持つ排他性に着目したものです。表現力、内容共に高い評価を受けました。2位の伊藤えりさんは、発音が非常に正確で、前回は課題部門で1位となっており、2年連続の入賞です。3位の加留部さんは、その落ち着いた語り口と内容が高く評価されました。(安部 悟)

韓国・朝鮮語部門

外国語コンテスト「韓国・朝鮮語」の本選は、2006年12月5日 (火)、16:40から実施されました。審査員は、今回初めてお願いした韓 銀英 (ハン・ウニョン) 先生と常石の2名が担当。

参加者は2年生を中心に、計32名。韓先生も驚くほどの、実力と熱演が繰り広げられました。審査の結果、次の諸君が入賞。

一位 03J1249 服部 剛士

二位 04M3244 西村 一騎

三位 05J1229 箕作 阿弓

一位の服部君は、韓国留学も経験している実力者。スピーチの内容は、インドのブッダガヤに一

人で旅行した際ユネスコに協力し、インドの小学生に授業をした時の苦労と感動について。留学経験者ということもあって、かなりのハンディキャップを課していましたが、あまりに流暢かつ正確な韓国語発音が評価されたのが第一、第二にスピーチの感動的内容も評価されての結果でした。またこの場を借りて学生諸君にお伝えしたいのは、留学経験者が他の学生よりうまいのは当たり前、1年生より3年生がうまいのも当たり前。そのため公正を期すため、審査には上記のハンディキャップ制度を採り入れています。(常石希望)

日本語部門

外国語コンテスト「日本語部門」は、日本語を母語としない者を対象に開かれています。今年は「留学生の見た日本」というテーマで、自らの体験を盛り込み、身近な出来事から意見や考えを述べることを課題でした。

法・経・現中三学部の1年次の留学生は、毎年全員参加しています。60名近くにもなりますから予選を行います。予選は20名ずつに分かれたクラスごとに行い、それぞれ3名の代表者が選ばれ、計9名が本選に進みました。本選へは他の学年の留学生も自由に出場できますが、今回は申し込みがなく、2006年11月16日、1年生9名で競うこととなりました。

昨年は愛知万博の影響もあったのではないかと思います。日本で見た環境問題を題材にしたものなど多様な内容でした。今年もさまざまなトピックがありましたが、印象的だったのは、日本と中国の共通点や相違点を取り上げたものです。そうしたトピックは例年出ていますが、今年は客観的に述べられたものが多かったという印象です。したがって、その説得力は例年以上だったと感じました。イントネーション、間の取り方、アイコンタクトなど、聴衆との言語的・非言語的コミュニケーションを念頭にスピーチに取り組みました。どれも内容豊かで、聞き手を納得させるものでした。

審査は、日本語科目担当教員2名(架谷・梅田)、学生審査員2名(留学生・日本人学生ともにスピーチ入賞経験者)、聴衆約50名の投票によって行い、熱い空気の中、3名の入賞者(敬称略)が決定しました。

- | | | | |
|----|---------|------|--------------|
| 1位 | 06C8200 | 李 美珍 | 「多文化化する日本社会」 |
| 2位 | 06M3316 | 孟 琳 | 「日本語の曖昧さ」 |
| 3位 | 06C8209 | 宋 春雷 | 「私の好きな映画」 |

最後に一言。日本人学生のみなさんはコンテスト日本語部門には参加できませんが、ぜひ一人の聴衆として留学生の声を聞きに来てください。きっと新しい発見があるはずです。(梅田康子)



外国語コンテスト入賞作



英語部門

第1位 Language Ability Changes with Astonishing Speed

05C8174 竹中治美

Hello, everyone. I will tell you about my first trip to China. This year from March to July I visited China with my classmates. I had never been abroad before so I was very excited and a bit nervous. Before I visited China, I studied Chinese for about 1 year in this college. But, I couldn't buy anything at the beginning, because I couldn't explain what I wanted in Chinese. So I learned by heart what I should say when I bought something. For example, “这个多少钱”, when I asked “How much is this?” It was just the beginning of my life in China. I was so shocked at my low Chinese level. I realized that I couldn't speak Chinese and that I had to learn a lot more!

About one week later I had my first lesson. When I started the lesson I was so surprised because I could understand the teacher's words. Of course, the teachers spoke only Chinese. After only one week, I gradually became used to hearing Chinese. During the first month, I found a study partner. I studied for about 1 or 2 hours with her two times a week. My partner could speak English but she couldn't speak Japanese. So when I asked her Chinese sentence, she explained in English.

Three months rolled by quickly. During the last months, in June, I could catch the words which Chinese people spoke on the street. And this time, my partner and I spoke only in Chinese. I wonder how my Chinese progressed so fast. I realized that the most important thing in studying foreign languages is speaking a lot and listening to the words every day.

During my life in China, most of the sounds were Chinese. Before I visited China, I couldn't explain what I wanted clearly. I couldn't speak even one sentence. But I realize language ability changes with astonishing speed. It depends on how I handle the word.

Lots of practice make perfect! It was a lesson from my trip. Thank you very much.

フランス語部門

第1位 Prénom

03J1292 Chika Narita

Bonjour mes amis. Vous aimez votre prénom? Moi, j'aime bien ça. Je ne suis pas narcissé, mais mon prénom me plaît beaucoup. Je ne le réfléchis pas toujours, mais je le fais de temps en temps.

Je m'appelle «chika» qui utilise le caractère chinois «āi», ça veut dire l'amour. On ne le lit pas correctement pour la première fois.

Un jour j'ai demandé à ma mère ; «Maman, pourquoi tu as choisi mon prénom «chika»? » «Inoubliable prénom, n'est-ce pas?» a dit ma mère. Je n'ai pas bien compris ce que ma mère a dit à ce moment-là. Mais, je me suis persuadée qu'elle souhaitait mon bonheur avec mon prénom.

Le kanji «āi» signifie l'amour. Il est difficile de lire ce kanji comme «chika». «chika» est un mot polysémique, qui a beaucoup de sens. Cela peut signifier par exemple «mille beauté», «parfum intelligent», ou bien «chéri», etc.

Mon prénom renferme des sens profonds. Ils sont tous dans mon prénom. L'attachement pour mon prénom augmente de plus en plus.

Alors chers amis, je vous propose de méditer sur votre prénom. Vous pouvez sans exception vous apercevoir de quelque chose petit mais précieux.

Merci de votre attention.

中国語部門

第1位 跳出排他性民族主义的圈子

02C8120 伊藤佳寿子

我是爱知大学的学生,叫伊藤佳寿子。我从小就对中国感兴趣,因此上了跟中国有密切关系的爱知大学。学习中更认识到中日两国的关系非常重要,认识到应该更多地了解中国,特别是了解中国人如何看待日本,如何看待日本人。出于这种想法,我去年去上海留了一年学。

就在我留学期间,中国发生了反日游行。我记得清清楚楚:2005年4月26号。那一天我出去看了

游行。参加游行的中国人举着“反日”的牌子，喊着“反日”的口号，可是越走越胡来，游行也成了骚动。其实，游行中有明确反日主张的只是很少一部分人；大部分都是乌合之众，这些人好像是来参加一种节日活动。结果，不少日本企业被砸，连日本驻上海领事馆的门窗也被砸了。当时，日本的媒体大都只报导了日本人如何如何受害。但是，实际上在游行现场受害更多的是中国的一般市民，比如开日本汽车的，在日本料理店干活的等等。他们遭他们的同胞投掷石块，挨他们同胞的拳打脚踢。他们大声地向游行队伍呼喊“和平游行”“和平游行”，可是谁理他们呢？此时此刻，我的心中产生了一个疑问：到底什么是“反日”呢？这种游行真的就是“反日爱国”吗？

日本媒体报导了许多有关游行的情况。那些报导比较偏激，看了那些报导的日本人无疑会觉得中国很可怕，从而产生强烈的厌华情绪。此后，日本国内一部分右翼势力也开始了反华游行。日本国内的“中国威胁论”再次抬头。书店里出现了很多所谓激发爱国热情的书。那么对日本人来说“爱国”又是什么呢？

这是两个值得思考的问题。

上个世纪的那场战争，不但把日本国民都卷了进去，还残杀了很多其它国家的无辜百姓。决策和领导那场战争的人，如东条英机等，是绝对不能原谅的。中国的领导人、热衷于中日友好的人经常说：一切责任在于当时的战争领导人，一般国民没有责任。但是我听到这种说法时总有一种复杂的感觉。中国人一说到：“日本人以前在中国做了很多坏事”的时候，我就想：我们父辈祖辈干下了坏事，我们不觉得愧疚吗？我们能认为与自己毫无干系吗？

对上面讲到的那些人的所谓“爱国”，我实在难以理解。“爱国”是什么呢？为了“爱国”我们可以伤害他人吗？一味伤害对方的感情，而不愿将心比心地理解对方，这就是“爱国”吗？尽管持这种态度的人人数不多，但是这是一个妨碍中日两国友好关系的因素，这种认识既不利于中日两国的友好，也不符合整个亚洲的利益。我们两国国民应该跳出排他性民族主义的圈子，高举中日友好的旗帜，携起手来，共同进步。

韩国·朝鮮語部門

第1位 인도에서의 체험

03J1249 服部剛士

저는 올해 2 월에 1 개월간 인도에 혼자서 배낭 여행을 갔습니다. 그 때 들렀던 붓다가야라고 하는 불교의 성지에 머물렀을 때의 일을 이야기합니다.

어느 날, 숙박지주인의 소개로, 근처의 초등학교에서 수업을 해보지 않겠냐는 제의를 받았습니니다. 저는 영어도 능숙하지 않았으며 처음에는 당황했습니다만,

「인도를 피부로 느끼고 싶다!」라고하는 강한 기분이 들어서,

「해보겠습니다!」라고 대답하였습니다. 저는 일본에서 가져온 ‘색종이’를 사용하여 수업을 하기로 했습니다. 교실에 들어가서 간단한 영어로

「안녕! 이젠 일본의 ‘折り紙’ (오리가미)야! 모두, 오리가미는 무엇인지 알고 있어?」라고 말한 뒤 수업을 시작하여 아이들에게 학을 접는 방법을 가르쳤습니다. 그리고 마지막에는 전원이 학을 완성할 수 있었습니다. 그 모습을 본 저는 매우 기뻐했습니다. 왜냐하면, 저는 그 날 인생에서 처음으로 선생님이 되었으니까요.

그리고 다음날, 빈민가의 아이들이 모여 있는 학교가 있다는 소릴 듣고, 그곳에 가봤습니다. 도착한 그곳은 그냥 공터에 골판지를 몇 장 깔았을 뿐, 지붕도 없었습니다. 그런 곳에서 빈민가의 아이들이 약 100 명 정도 모여서 소수의 어른들이 자원봉사로 그 아이들에게 영어와 산수를 가르치고 있었지만, 교과서도 없고, 노트나 연필도 많이 부족했습니다.

저도 거기서 아이들에게 며칠간 영어와 산수를 가르쳤습니다만, 그럴수록 점점 자신이 부끄러워졌습니다. 배우고 싶어도 배울 수 없는 아이들이 이렇게 많이 있는데, 모두가 풍족한 환경에 살고 있는 우리는 도대체 무엇을 하고 있는 것인가? 라고 생각하니 슬퍼했습니다.

저는 인도에서 많은 것을 배울 수 있어

감사하고 있습니다. 이러한 경험을 가슴에 새겨, 그들을 위해서라도 지금 제가 살고 있는 환경에서 낭비하는 일 없이 열심히 살아갈 생각입니다. 감사합니다.

日本語部門

第1位 多文化化する日本社会

06C8200 李美珍

こんにちは。現代中国学部の李美珍と申します。よろしく願います。

ある朝、込んでいる電車の中で私たちは韓国人同士でおしゃべりをしていました。その時、「外国人だ!」という声がありました。瞬間的にこう言ったのは、ほかでもなく今までおしゃべりしていた友達でした。向うに座っていた欧米人を見て言ったのです。「何だ~自分だって外国人のくせに...」そう言いながら笑いました。

電車に乗っているとき、道を歩いているとき、外国人に会うことは珍しいことではありません。私が今働いている、駅前のコンビニにもアメリカ人や中国人のお客さんが来ます。アルバイトを始めたばかりの頃、彼らがレジの前にたつと、思わず緊張してしまいました。「英語で話さないといけないのかな?日本語を知っている人かな?」私はいつも迷いながら日本語で聞いていました。でも、あるときのことです。欧米のお客さんに「袋にお入れしましょうか?」と聞いた時、その人はこう言いました。「いらない!」衝撃的でした。それ以来、私は迷わず日本語で聞くようになりました。

でも、逆にお客さんを緊張させることもありました。金額を間違えて読んでしまったり、お客さんの要求がよく分からなくてちゃんと処理できなかったりして散々怒られました。その時、「あんた外国人?できないならこんなところで働くなよ!」と厳しく言われたこともありました。そう言われてから落ち込んでいた私をマネージャーさんが慰めてくれました。「日本に来てまだ6ヶ月しかたつてないんだって?すごいね~李さんは言葉に困ら

ないし、しっかりやってくれて本当に助かるわ。」マネージャーさんのその一言で私はまた元気を出せました。

日本もアメリカのようにいろいろな国の人が集まっているような気がします。外国人の人口が増えていくにつれて、だんだん多文化化している日本。でも、まだ日本人はそれを受け入れようとしていないのではないのでしょうか?どうやって受け入れればいいのか迷っているのではないのでしょうか。普通にしゃべっていた人から、「お名前は?」と言われて自分の名前を言った時、「あ...外国人?」という反応。確かに、外国人には言葉という壁があるかもしれません。日本人と違う考え方を持っているかもしれません。でも、私達は同じ人間なのです。何かを学びたいと思って来た人間なのです。もう少し心を開いてみませんか?勇気を出してみませんか?あなたにとって私は外国人ではなく、近所の人、学校の友達、たまにミスするかわいいい店員でありたいです。